

体育・スポーツだより
[桜木地区の成績]



★ 第12回市民陸上競技大会(地区男女入賞)

- [☆地区男子の部]
- * 100m. ③ 前川 孝12"9 ④ 加藤雅章13"5
- * 200m. ④ 中山一生28"2
- * 400mリレー. ③ 桜木チーム
- [☆地区女子の部]
- * 100m. ④ 長松令子16"2 ⑤ 中山和子17"4
- [☆地区女子(30才の部)]
- * 50m. ③ 長松令子8"4 ⑤ 中山和子8"8

★ 婦人団体

スポーツ大会「綱引き」で桜木が準優勝



6月20日、市体育館で市内の各単位婦人会をはじめ、各種団体の婦人部等の参加で恒例のスポーツ大会が催され、わが桜木婦人会は、綱引き競技で底力を発揮し、見事に準優勝の栄冠を獲得した。

マリゴールド3,600本

地区育苗会が配布

育苗会は、季節ごとにいろいろな花を自治会や幼稚園等に配って感謝されているが、6月24日には激しい雨天の中で育苗畑からマリゴールド3,600本を採取され、各自治会や保育園・幼稚園等に配布した。育苗会の方々に改めて感謝し、みんなで大事に育てましょう。



7月23日は

参議院議員選挙投票日

お詫び 6月の公民館だよりの記事で「地区運動会成績」で総合の部2位は、「桜木2丁目」でした。お詫びして訂正致します。(桜木公民館長)



平成元年 7月号
No. 89-6
発行 桜木公民館
徳山市城ヶ丘2-4-21
☎28-5973

生涯学習

● 学ぶ姿勢は家庭教育で ●

「三つ子の魂百まで」の言葉のとおり、乳幼児の時期の育ち方や体験が、その後の身体の発達や性格の形成などに極めて重要な意味を持っており、家庭教育は、乳幼児の時期から決しておざなりに出来ない大切なことです。

子供が人間性豊かな人格の持ち主となり、生涯にわたって学習しようとする意欲を持ち続けるかどうか—これは「家庭教育」のあり方によるところが大きいのです。

学習への意欲や姿勢は、親の態度から。

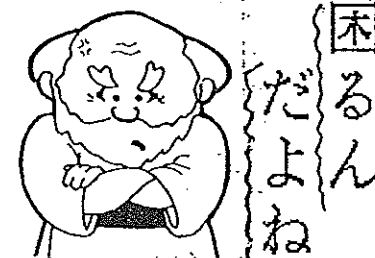
人間には、子供から大人へと成長していくそれぞれの時期に身につけておかなければならない多くの課題があり、身体の発育・運動機能・知識・情緒などの様々な側面があります。

子供がこのような課題を達成する為には、親がそれにふさわしい環境を作ってやるのが大事です。そのためには、第一に、親が子供との触れ合いを多く持ち、子供に体験・思考・選択させる機会を豊富に持たせてやることです。第二に、親自身がひたむきに、しかも楽しく学び続けることです。そうすれば子供も自然と親を見習って、学ぶ意欲や姿勢を持つようになるでしょう。

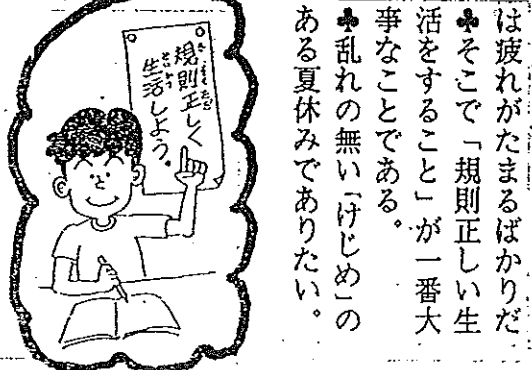
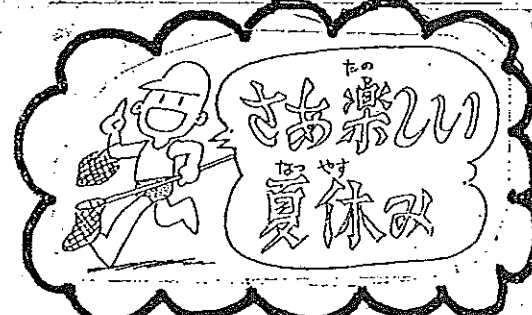
● 人は誰でも生涯にわたり、家庭や学校や社会といった場でのいろいろなことを体験し、そこから多くのことを学びながら成長していきます。

● 人格の形成にとって、どのような体験をし、どのような学習をするかが極めて大事なことであり、家庭・学校・社会のそれぞれの場合、人間性豊かな人格形成にふさわしい環境となることこそ、生涯学習の基本です。

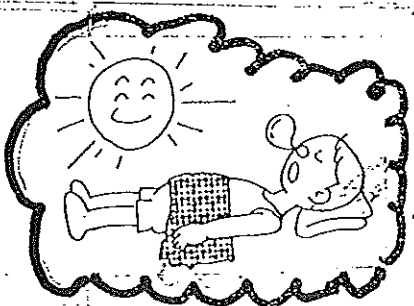
公民館から
厳重注意

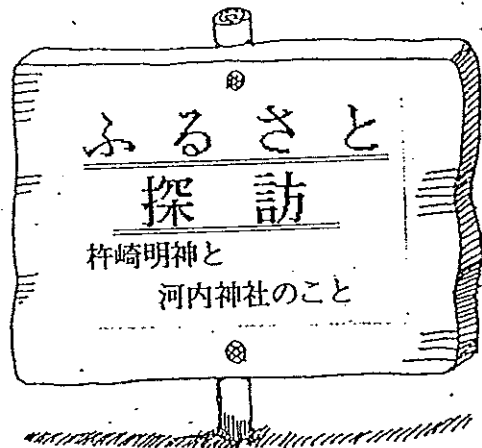


公民館に使用申込をして室を確保した後に、使用を中止(キャンセル)する例は時々ありますが、この場合事前に公民館連絡が無ければ公民館としては、その室は使用されるものとして他の申込者に断らなければならず、皆が大迷惑をします。公民館には必ず連絡を。使用中



● 七月廿一から楽しい夏休み。
● 健康でたくましい身体づくりには絶好のとき。
● でも、走りまわり遊びまわるばかりでは疲れがたまるとばかりで、そこで「規則正しい生活をする」ことが一番大事なことである。
● 乱れの無い「けじめ」のある夏休みでありたい。





寄稿

城北寿会・黒坂政雄氏(城5-10-34)

郷土に昔から在る古宮と、地区民の信仰崇拝ぶり、と、五穀豊穡を祈り、あるいは神に感謝する農民事等々の貴重な探訪記が寄せられました。



はじめに

ふるさと創生事業で、「とおの山」開発が決定した。「とおの山」に関する事柄を調べて郷土を深く知りたいと思い、「杵崎明神(きさかみ)と、「河内(か)神社」のことについて調べてみた。

杵崎明神

◆杵崎明神は、もとは「とおの山」の山頂に祀られていた。
◆祭人は、科津彦神(なかつひこ)で風の神様である。農業が生活の根幹であった我々の先祖は、風の神を大気支配の神、ひいては五穀豊穡をもたらす神として厚く信仰したのである。
◆杵崎明神の本社は、奈良県生駒郡三郷村の龍田神社で、近世初頭に分霊されて「とおの山」に祀られたものである。
◆杵崎明神は、県内の各地に祀られている。この付近では一の井手・室積・長穂等にある。本社の龍田神社は、同じ祭人を祀る同県の広瀬神社と共に、祭日は旧暦の4月と7月の4日である。とおの山の杵崎明神の祭礼は旧暦8月4日の年1回である。旧8月4日は丁度二百十日頃で台風時期に当たっている。米の豊作を願う農民の気持ちは格別に強く、台風時期の天候や風災についての強い関心は十分に想像できる。

◆この祭礼を「風鎮祭」と言って、この日は平原の氏子は夕刻から松明(か)を持って山頂の神前に集まり、久米天満宮の宮司様司祭で祭礼がとり行われた。

◆神前を掃除し、御幣・注連を準備し、米・酒・塩・山野の物をお供えする。松明を周囲に立てて点火し、宮司様の風鎮めと豊作祈願の祝詞奏上が行われるのである。こうして祭礼が行なわれ松明が消えて終了し氏子は下山した。

◆地区の古老は、「平素、山で松を伐ったとき肥え松があれば風鎮祭用に備え保管していた」と言っていた。

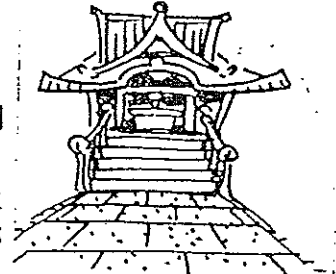
◆山頂の杵崎明神は、大正年間に麓の平原の小高い山に遷座された。山頂では遠くて不便であったからであろう。その位置は徳山大学体育館の西側に当り、今は徳山工業高専へ通ずる道になってしまった。その後徳山大学建設に伴い、更に平原の河内神内神社の敷地内に遷座されたのである。

◆風鎮祭は、その後新暦の8月4日に改正された。そして、いつの間にか河内神社の祭礼と共に行われ、1年1回の祭事となった。

◆この祭礼では、昔から地区に伝えられている御札の木版を神前に御供えして、風鎮・豊作の祈願をこめて半紙に刷り、氏子各戸へ当屋を通して配布した。氏子はこの御札を竹に挟み田に立てて豊作を祈ったのである。

◆その御札は別図のとおりである。

河内神社



◆河内神社は、上平原に行く旧平原の東斜面に鎮座されている。今は小さな祠堂に祀られていて、その傍に杵崎明神の祠堂もある。

◆河内神社の御神体は、水を司る神様で「御水分神(みづりかみ)と言ひ、ここには「国之御水分神(くにのみづりかみ)・天津御水分神(あまのみづりかみ)の二柱の神がお祀りしてある。

◆米は水稲からとれるように、豊かな水流で豊作が期待できるのである。昔から、水源・溪谷・川水流の分岐場所等に水神を祀る風習があった。この河内神社もそのような事情で建立されたのであろう。

◆河内神社は、以前は平原の「矢面(やづら)又は、やーめん)と呼ばれた所に鳥居を持った社殿があった。その位置は、城ヶ丘公園の西側に当り、小高い山の上に建立されていたとのことである。

◆明治40年に神社整理の県令が公布されたので河内神社も廃社となり、社殿・鳥居の取り壊しが行われた。そして現在地の石の祠堂に合祀し、「河内社」として祭祀が続いているのである。合祀された祠堂は、河内神社の末社として以前からあったものである。

◆取り壊された社殿は移され、解体された鳥居は、その付近に倒されていたということであった。それも団地造成の時に地中に埋没されて見えなくなってしまった。

◆河内神社の祭礼は10月5日である。平原では送り当屋が、久米天満宮の宮司様をお迎えして水神様のお祭りを取り行っている。その「引継ぎ録帳」が当屋に保管されている。最近では杵崎明神とあわせて、年1回合同祭祀を行うようになった。 終わり。

(後記) 杵崎明神・河内神社については、郷土史家・久米天満宮宮司・神本正律先生の御懇篤なご指導をはじめ、城5の藤井末夫氏の御協力を得ました。厚く御礼を申し上げます。(黒坂政雄)

五穀成就 杵崎神社風鎮祭 氏子安全

約 27センチ

約 10cm弱

☁ 「杵崎明神」と「河内神社」の昔の面影を残す写真をお持ちの方があれば公民館にご一報下さい。
☁ 黒坂先生から、「ふるさと探訪」の続編が寄せられる予定です。公民館だより次号以降にご期待を。



◎ 桜木小学校「PTA広報」から
§ 7月16~18日 ⇒ 5年生宿泊訓練
§ " 19日 ⇒ 一学期末保護者会
§ " 20日 ⇒ 終業式

◎ 桜木白ばら会から
7月定例学習会・7月21日(金)AM9時より公民館で。「寝たきり老人の介護について」講師・市健康管理課 藤谷 美津子 保健婦